



学習院大学史料館 ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.22

発行日 ● 平成25年(2013)5月20日

もくじ

ごあいさつ	1
史料館講座のお知らせ	1
『ヴァイオリンの誕生とその歴史』	2
次回展覧会のお知らせ	4

ごあいさつ

このミュージアム・レターが皆様にお届けするのは、第70回史料館講座の内容を講師の方にまとめていただいたものです。講師の松下敏幸氏は、イタリア北西部の古都クレモナで長年ヴァイオリン製作に打ち込んでこられました。史料館には高松宮旧蔵のヴァイオリンがあり、その鑑定と修復をお願いしたことから、史料館としてはたぶん空前絶後の、コンサート付の講演会が実現したわけです。講師と演奏家の方々に、心から御礼申し上げます。

さて、ヴァイオリンに関心を寄せる方にとって、クレモナという町の名は決して耳慣れないものではないでしょう。しかし、少なくとも日本の旅行ガイドではごく小さな扱いしか受けていないので、実際にここを訪れた日本人は少ないと思われます。ところが、私はたまたま数年前にクレモナに行ったことがあるのです。当時書いていた論文との関係でこの町のサン・タゴスティーノという教会の天井画を見る必要があります(私の専門は西洋美術史です)、イタリアに留学中だった教え子を道連れに、滞在中のフィレンツェから鉄道でクレモナを目指しました。途中バルマで乗り換える必要があったのですが、間に合うはずの電車は特に理由もなく遅れ、バルマに着いたときには乗り換えの電車は出たあとでした。そう頻りに電車があるわけではなく、私一人だったらあきらめて引き返したところですが、教え子が駅員からバスとローカル線を乗り継いでクレモナに行く方法を教えてもらいました。予定よりもだいぶ遅れたものの無事に目的地にたどり着き、サン・タゴスティーノ教会で天井画を観察し、写真も撮影することができたのです。

とはいえ日帰りの予定だったので、美術館では駆け足の鑑賞を余儀なくされ、楽器博物館には立ち寄ることもできませんでした。この講演会があることがわかっていたら、一泊してでも楽器博物館に行ったものを、と残念でなりません。今度クレモナに行くことがあれば、そのときは楽器博物館も訪れ、松下さんの工房にもお邪魔したいと思っています。

(館長 高橋裕子)



高松宮宣仁親王所用ヴァイオリン(鈴木政吉製四分の三)

第70回 学習院大学史料館講座

音を創る・音をつなぐ

レクチャー&コンサート

製作者でもなく、演奏家でもない。

“楽器”が主人公のコンサート

2013年6月22日(土) 14:00~16:00

講師: 松下敏幸氏(マエストロ・弦楽器製作者)

入場無料・事前申込み不要

(定員800名、開場13:00予定)

会場: 学習院創立百周年記念会館正堂